

広島市における新たな平和教育プログラムの効果に関する研究

ト 部 匡 司・山 崎 茜・石 井 眞 治

Effects on New Peace Education Program in Hiroshima

Masashi URABE, Akane YAMASAKI, Shinji ISHII

The existing peace education program in Hiroshima was considered as non-responsive to the country's aging population and demands of globalization. A-bomb victims are gradually decreasing due to natural death and the globalizing world challenges the nature and context of peace. In consideration of these challenges, the Hiroshima city board of education developed a new school program on peace education which will be introduced to all public schools in 2013. Prior to its full fledged implementation, it was pilot tested in ten selected city public schools.

This study analyzes the effects of the new program on the students' understanding of peace using survey questionnaires. The students were asked to answer the survey questionnaires prior to and after the implementation of the new program. Results show that the program can (1) encourage students to acquire historical knowledge about the issues pertinent to the A-bomb catastrophe in Hiroshima and (2) enable students to consider prospective actions and decisions for building a peaceful society. Nevertheless, the program lacks motivating strategies to inspire the children in initiating actions for peace.

はじめに

- I. 「平和教育プログラム」の内容構成
- II. 効果検証のための調査の概要

III. 調査の結果

- IV. 結果の考察
- おわりに

はじめに

本稿の目的は、広島市において開発されつつある新しい「平和教育プログラム」の効果を実証的に明らかにすることである。

周知のとおり、広島では伝統的に平和教育が盛んであるが、これまでの平和教育は基本的に、被爆者の体験をもとに原爆や戦争の実相を学ぶことによって、子どもたちの平和意識を喚起するものであった（広島市教育委員会 2011）。しかしながら、時代の経過とともに被爆者の数が減少し、直接的な被爆体験の継承が困難となりつつある。また世界のグローバル化に伴い、テロなどの新しいタイプの紛争が出現している。こうした状況に鑑み、広島市では新たな平和教育プログラムの開発が求められている。

こうした問題意識のもと、広島市は「教育振興基本計画」（2010）において「地球規模での持続可能な社会の構築」を目指すことを宣言した。そしてそ

のために学校教育において「持続可能な社会づくりの担い手」を育成し、「命を大切にし、平和で持続可能な社会を創造していく力をもつ子どもを育てていく」という目標を掲げた（広島市 2010:1）。このプログラムの新しさは、それがESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育／持続発展教育）の考え方を取り入れていることにある。ESDとは、持続可能な社会づくりのために私たちは何ができるのか、その方策について考える学習である。これまでESDは、環境教育や開発教育の分野で議論され実践されてきた（立教大学ESD研究センター 2012）。これに対して、広島市教育委員会は世界に先駆け、ESDを平和教育によって実践することを決断したのである。実際、2011年度から新たな「平和教育プログラム」の策定が始まり、それが広島市立の全学校で2013年度から実施される

ことになった。

こうした新しいプログラム策定の背景には、次のような事情がある。すなわち、これまでの被爆体験や平和意識は、学校教育だけでなく家庭教育のなかで、とりわけ被爆を体験した両親や祖父母によって語り継がれてきた。ところが、そうした「戦争を知る世代」の減少により「戦争を知らない世代」が「戦争を知らない世代」へ語り継ぐという課題に挑戦せざるを得ない状況になってきている。こうした状況にあって広島市は、持続可能な社会づくりに参画するための教育として平和教育を位置づけ、ESDの視点に基づく平和教育プログラムの策定に取り組むことになった。こうした取り組みやその成果に関する研究は世界でもほとんど例がない（ト部2009）。それゆえ、この新たなプログラムに基づく実践の効果を測定し、今後の改善に役立てるための研究に着手することは大変意義深いことである。

新しい「平和教育プログラム」の全校実施に先立ち、2012年度には広島市立の研究協力校10校（小学校4校、中学校4校、高校2校）において、本プロ

グラムが試行的に実施され、その効果の検証が行われた。本稿は、その効果に関する報告ならびに考察である。筆者らは、広島市教育委員会から委託を受けた第三者的立場の研究チームである。この立場から以下の本論では、まず広島市の新しい「平和教育プログラム」の内容構成について概観する。次いで、本プログラムの効果を測定するために実施した質問紙調査について、その概要と結果を報告する。そして最後に、この結果に対する考察および今後の課題について述べる。

I. 「平和教育プログラム」の内容構成

広島市教育委員会が新たに策定した『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』（2012）によれば、広島市の新しい平和教育プログラムとして、次のような4つのプログラムが策定されている。そして、それらの内容は以下のような構成となっている（表1～4参照）。

表1：平和教育「プログラム1」（小学校低学年）

【第1学年】単元名：みんなのたからもの		
単元目標：自分の宝物を絵に表わすことを通して、自分の周りの友達も、大切なものに囲まれて生活していることに気付くとともに、原子爆弾によって、それらの大切なものが一瞬にして消えてしまったことを理解し、生命や平和の大切さについて考える。		
学習1（気付く）	ぼく・わたしのたからもの～たからものをえにかこう～	図工
学習2（考える）	ぼく・わたしのたからもの～たからものをしょうかいしよう～	図工
学習3（伝える）	金魚がきえた	道徳
【第2学年】単元名：みんな生きている		
単元目標：植物の生命を五感をつかって感じ取るとともに、原爆を植物の目線から考えることを通して、生命あるすべてのものをかけがえないものとして尊重し、平和を大切にしようとする心を持つ。		
学習1（気付く）	もっと草花にしたしもう	生活
学習2（考える）	アオギリ	道徳
学習3（伝える）	アオギリさんたちへの手紙	国語
【第3学年】単元名：せんそうがあったころの広島		
単元目標：戦争があった頃の子どもたちのくらしの様子から、厳しい生活の中でも家族が支え合っていくことの大切さを知るとともに、戦争や原子爆弾が尊い命や家族のきずなを一瞬で奪う非人道的なものであることを理解し、平和を大切にしようとする心をもつ。		
学習1（気付く）	子どもたちのくらし～今と昔～	社会
学習2（考える）	家族のきずな	道徳
学習3（伝える）	引き裂かれる家族	道徳

出典：広島市教育委員会（2012）『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』広島市教育委員会、11、19、28頁。

表2：平和教育「プログラム2」（小学校高学年）

【第4学年】単元名：広島ひばくと伝えたいこと		
単元目標：被爆の実相や当時の子どもたちの生活について知るとともに、苦しい時代の中でも自分にできることを全力を尽くしてやりぬこうとした人々や、平和への願いを伝えていこうとしている人たちの思いに気付き、その思いを受け継いで平和を大切にしていこうとする心をもつ。		
学習1（気付く）	フラワーフェスティバルにこめた願い	社会
学習2（考える）	広島ひばくと人びとの暮らし	社会
学習3（伝える）	残したいもの、伝えたいこと	道徳
【第5学年】単元名：広島市の復興と人びとの願い		
単元目標：被爆直後の被爆者の思いや広島市の復興に携わった人々の思いに触れ、郷土の発展に努めてきた人々に対する尊敬や感謝の念をもつとともに、自己の生き方を見つめ、自分にできることや平和についての考えを深める。		
学習1（気付く）	戦争・原子ばくだんがうばったもの～ひばく者の思い～	道徳
学習2（考える）	復興と人びとの願い	道徳
学習3（伝える）	復興・発てんのにない手として	国語
【第6学年】単元名：これからの広島		
単元目標：広島市の再開発事業をはじめ、平和を希求する様々な活動について理解するとともに、身近な平和を見つめることを通して、これからの広島の担い手として、平和な社会づくりに主体的に参画していこうとする意欲をもつ。		
学習1（気付く）	平和なまちづくり	社会
学習2（考える）	くらしの中の平和	社会
学習3（伝える）	より平和なまちづくりを目指して	国語

出典：広島市教育委員会（2012）『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』広島市教育委員会、41、48、60頁。

表3：平和教育「プログラム3」（中学校）

【第1学年】単元名：人々の平和への思い		
単元目標：お好み焼きに込められた思いや、広島まちの復興の様子を知り、広島の人々の平和への思いに触れるとともに、自分たちの学校や地域社会の平和についても考え、一人一人が平和に向けて主体的に考えていこうとする心をもつ。		
学習1（気付く）	お好み焼きに込められた思い	道徳
学習2（考える）	平和記念都市建設に込められた思い	社会
学習3（伝える）	自分たちの学校や地域社会の平和	国語
【第2学年】単元名：広島と世界とのつながり		
単元目標：「原爆の子の像」の建立に尽力した広島子どもたちやジュノー博士の功績を理解するとともに、広島と世界とのつながりについて考え、平和に貢献しようとする心をもつ。		
学習1（気付く）	世界に広がっていったサダコと折り鶴	道徳
学習2（考える）	国境を越えた「愛」と「勇気」	社会
学習3（伝える）	平和のためのレシピ	国語
【第3学年】単元名：持続可能な社会の実現		
単元目標：核兵器廃絶に向けた世界の取組から、現在の世界が抱える課題を理解し、課題解決の道を探求する過程で、広島の中学生として持続可能な社会を形成していくという自覚をもつ。		
学習1（気付く）	核兵器をめぐる世界の現状	社会
学習2（考える）	国際平和に向けての取組	社会
学習3（伝える）	平和で持続可能な社会に向けて	国語

出典：広島市教育委員会（2012）『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』広島市教育委員会、73、81、90頁。

表4：平和教育「プログラム4」（高等学校）

【高等学校Ⅰ】単元名：ヒロシマ		
単元目標：これまでの平和学習を踏まえながら、平和とは何かについて考えを深める。また、原子爆弾投下時に広島で何が起きたか、原子爆弾とその影響力について、科学的な観点から核兵器について学ぶとともに、被爆した人々の思いやその後の生き方などについて考える。		
学習1（気付く）	平和とは何か	LHR等
学習2（考える）	原子爆弾と被爆の実相	LHR等
学習3（伝える）	被爆体験者が伝えること	LHR等
【高等学校Ⅱ】単元名：平和で持続可能な社会について		
単元目標：国際社会の諸課題について、多面的・多角的に探究し、持続可能な社会に参画するという観点から、国際社会におけるヒロシマの役割について考察を深める。		
学習1（気付く）	核兵器について考える	LHR等
学習2（考える）	ヒロシマに対する人々の思い	LHR等
学習3（伝える）	ヒロシマから国際社会へ	LHR等
【高等学校Ⅲ】単元名：私たちの平和プロジェクト		
単元目標：「私たちの平和プロジェクト」を提案することを通して、平和な世界を創っていくために自分に何ができるかを考え、「平和な世界の実現」に主体的に関わる姿勢をもつ。また、これまでの平和に関する学習を振り返り、自分の進む道を平和と関連させてとらえ、将来の生き方について展望する。		
学習1（気付く）	平和の実現のために自分ができること	LHR等
学習2（考える）	私の平和プロジェクト	LHR等
学習3（伝える）	私の目指す進路と「平和」	LHR等

出典：広島市教育委員会（2012）『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』広島市教育委員会、99、107、115頁。

本プログラムは「プログラム1：被爆の実相に触れ、生命の尊さや人間愛に気付く」（小学校低学年）、「プログラム2：被爆の実相や復興の過程を理解する」（小学校高学年）、「プログラム3：世界平和にかかわる問題について考察する」（中学校）、「プログラム4：平和で持続可能な社会の実現について展望する」（高等学校）からなる。また小・中・高校のいずれにおいても、各学年で3時間ずつプログラムを実施するようになっている（広島市教育委員会2012）。

Ⅱ. 効果検証のための調査の概要

広島市における新たな「平和教育プログラム」の効果を検証するため、本プログラムに基づいて授業を実施した研究協力校において、その事前と事後に児童生徒を対象とした質問紙調査を実施した。

1. 調査の対象および時期

調査対象者は、広島市内の小・中・高校生1146名である。また調査対象校は、広島市内ならびに広島市郊外の研究協力校10校である（表5参照）。

表5：調査対象者（内訳）

地区	広島市内									
校種	小学校				中学校				高校	
学校	A校		B校		C校		D校		E校	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	76	74	58	32	51	49	53	53	24	52
地区	広島市郊外									
校種	小学校				中学校				高校	
学校	F校		G校		H校		I校		J校	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	64	74	82	86	55	49	55	55	61	43

調査の時期は、小学校、中学校、高等学校ともに「平和教育プログラム」を実施する前後であり、事前調査は6月～7月、事後調査は7月～9月に行った。

2. 調査の項目と尺度

児童生徒に対する質問紙調査は、その発達段階に配慮して、次の2種類の調査票を準備した。ひとつは小学校2～3年生を対象としたものであり、もうひとつは小学校4年生から中学生および高校生までを対象とした調査票である。なお、小学校1年生については、本プログラムに基づく学習を実施したものの、調査票への回答作業が困難なことから今回は効果測定のための調査の実施を見送った。

(1) 小学校2～3年生に対する調査

小学校2～3年生に対する調査では、「平和学習において何を学び、何を感じたか」について以下のような12項目の質問を設定し、これまでの平和学習で学んだこと、そして本プログラムに基づく学習を通して学んだことについて、それぞれ回答してもらった。(表6参照)

表6：調査項目（小学校2～3年生）

項目
広島に原爆が落とされた
いじめはだめ。いじめられている人がいたら、助けてあげる
みんなできまりやルールを守る
平和について学習することは大切だ
広島以外の場所にも原子爆弾が落とされた
平和のために自分にできることをする
世界の人と仲よくする
平和のために世界の人たちがいろいろなどをしている
自分が思っていることを聞いてもらえた
自分が思っていることを発表できた
平和について学習することは好きだ
友だちと平和について話し合う

(2) 小学校高学年～高校生に対する調査

小学校4年生から高校生までは、「原爆投下をめぐる知識」、「平和学習において何を学び、何を感じたか」および「平和を構築しようとする意識」について、それぞれ回答してもらった。まず「原爆投下をめぐる知識」では、①広島原爆投下日時、②広島被爆死者数、③長崎被爆の事実について質問した。

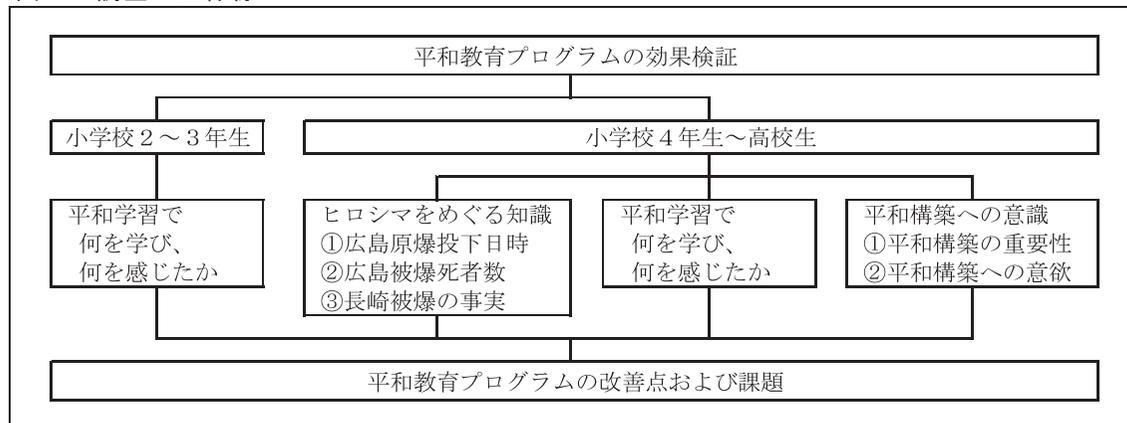
次に「平和学習において何を学び、何を感じたか」については、以下の17項目の質問を設定し、これまでの平和教育で学んだこと、そして本プログラムを通して学んだことについて、それぞれ回答してもらった。また「平和を構築しようとする意識」では、①平和構築の重要性、②平和構築への意欲について質問した。ここでの平和構築とは、子どもたちが平和な社会づくりを意識し、それに向けて努力していくという意味である。(表7参照)

表7：調査項目（小学校4年生～高校生）

項目
広島市に原子爆弾が投下された日時
広島市以外でも原子爆弾が投下されたということ
世界各国でも平和のための取り組みが行われていること
規則やルールを守ることの大切さ
平和な社会をつくるために自分にもできることがあること
いじめや差別を受けている人を助けることの大切さ
世界の人びとと仲良くしたい気持ち
学校で平和について勉強することが大切だということ
他の人と意見を交流させ平和について新しい発見ができた
自分の平和への思いを他の人に聞いてもらえた
自分の平和に対する考えを表現することができた
学校での平和学習は楽しい
学校での平和学習は好きではない
平和は大切だと思うが学校での平和学習は好きではない
学校での平和学習は嫌いだ
学校での平和学習は暗い
学校での平和学習は怖い

なお、本調査の全体像を図示しようとすれば、次の図1ようになる。

図1：調査の全体像



Ⅲ. 調査の結果

1. 原爆投下をめぐる知識

(1) 広島原爆投下日時の正答率

広島原爆投下日時に関する回答を、完全正答、部分正答、誤答、未回答で分類し、その正答率を示したものが表8である。

表8：広島原爆投下日時の正答率

		完全正答	部分正答	誤答	未回答
小学校 高学年	事前	38.4%	50.6%	4.7%	6.3%
	事後	73.0%	22.0%	2.8%	2.2%
中学生	事前	60.3%	35.8%	2.0%	2.0%
	事後	72.0%	25.3%	0.5%	2.3%
高校生	事前	76.3%	22.0%	0.6%	1.1%
	事後	79.1%	19.8%	0.6%	0.6%

広島原爆投下日時（1945（昭和20）年8月6日8時15分）については、小学4～6年生、中学生および高校生のいずれにおいても、本プログラムによる知識の精緻化が見られた。

(2) 広島被爆死者数の正答率

広島被爆死者数に関しては、その回答を正解と誤答に分類した（表9参照）。

表9：広島被爆死者数の正答率

小学校高学年					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
13.3%	86.7%		50.2%	49.8%	
中学生					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
22.6%	77.4%		26.2%	73.8%	
高校生					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
28.9%	71.1%		36.0%	64.0%	

広島の被爆死者数（1945年の12月末までで約14万人）の正答率は、小学校4～6年生、中学生ならびに高校生のいずれにおいてもその知識が精緻化された。この精緻化は、とりわけ小学生において顕著であった。

(3) 長崎被爆の事実の正答率

長崎被爆の事実に関しては、その回答を正解と誤答に分類した（表10参照）。

表10：長崎被爆の事実の正答率

小学校高学年					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
81.7%	18.3%		96.9%	3.1%	
中学生					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
99.3%	0.7%		98.5%	1.5%	
高校生					
事前調査			事後調査		
正答	誤答		正答	誤答	
99.4%	0.6%		99.4%	0.6%	

長崎被爆の事実に対する正答率は、小学校4～6年生、中学生および高校生のいずれにおいても知識の精緻化が見られた。特に小学校での教育効果が顕著に見られる一方で、中学生以上のほとんどが本プログラムの実施前から長崎被爆の事実、すなわち広島以外にも被爆した都市があるということを知っていることがわかった。

2. 平和学習で何を学び、何を感じたか

(1) 小学校2～3年生

児童生徒が平和について学んだことのうち、これまでの学習と本プログラムによる学習とに分類し、これまでの学習を選択した割合の多い項目から順に並び換えた（表11参照）。

表11：平和学習で何を学び、何を感じたか（小学校2～3年生）

質問項目	既知していた	新たに学んだ
広島に原爆が落とされた	92.8%	96.9%
いじめはだめ。いじめられている人がいたら、助けてあげる	87.8%	86.5%
みんなできまりやルールを守る	87.4%	86.5%
平和について学習することは大切だ	85.6%	88.3%
広島以外の場所にも原子爆弾が落とされた	78.8%	70.3%
平和のために自分にできることをする	78.8%	81.6%
世界の人と仲よくする	74.8%	83.9%
平和のために世界の人たちがいろいろなことをしている	68.9%	76.2%
自分が思っていることを聞いてもらった	68.9%	76.7%
自分が思っていることを発表できた	68.0%	77.0%
平和について学習することは好きだ	62.6%	74.0%
友だちと平和について話し合う	50.0%	65.5%

小学校2～3年生は、これまでの平和学習で「広島に原子爆弾が投下されたこと」、「いじめはだめ。いじめられている人がいたら、助けてあげる」、「みんなできまりやルールを守る」、「平和について学習することは大切だ」ということを学んできたことが分かった。

他方、本プログラムによる学習からは「広島に原子爆弾が投下されたこと」、「平和について学習することは大切だ」、「いじめはだめ。いじめられている人がいたら、助けてあげる」、「みんなできまりやルールを守る」、「世界の人と仲よくする」、「平和のために自分にできることをする」ということを学んだことが判明した。

さらに、「平和のために自分でできることをする」、「世界の人と仲よくする」、「平和のために世界の人がいろいろなことをしている」といった項目では、これまでの平和学習よりも本プログラムによる学習から多くを学んだと認識していた。また、「自分が思っていることを聞いてもらえた」、「自分が思っていることを発表できた」、「平和について学習することは好きだ」といった項目でも、これまでの平和学習よりも本プログラムによる学習のほうに意義を感じていることがわかった。

(2) 小学校4年生～高校生

小学校4年生以上においては、平和学習を通して学んだり感じたりする17項目について、これまでの

学習と本プログラムによる学習とに分類し、それぞれの項目をどちらで多く学んだかについて回答してもらった(表12参照)。

(a) 小学校4～6年生

小学校4～6年生は、これまでの平和学習で「広島市以外でも原子爆弾が投下されたということ」、「学校で平和について勉強することが大切だということ」、「平和な社会をつくるために自分にもできることがあること」を学んできたという一方で、本プログラムによる学習からは「平和な社会をつくるために自分にもできることがあること」、「学校で平和について勉強することが大切だということ」、「世界の人びとと仲良くしたい気持ち」を学んだことが明らかになった。

(b) 中学生

中学生は、これまでの平和学習で「広島市以外でも原子爆弾が投下されたということ」、「広島市に原子爆弾が投下された日時」、「平和な社会をつくるために自分にもできることがあること」を学んできたという一方で、本プログラムによる学習からは「平和な社会をつくるために自分にもできることがあること」、「世界各国でも平和のための取り組みが行われていること」を学んだことがわかった。本プログラムの事前と事後に実施した調査結果の差から推測しても、本プログラムでは持続可能な社会づくりを意識した学習が行われていることがわかる。

表12：平和学習で何を学び、何を感じたか（小学校4年生～高校生）

質問項目	小学校高学年		中学生		高校生	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
広島市に原子爆弾が投下された日時	68.5%	55.8%	71.3%	41.3%	81.4%	51.4%
広島市以外でも原子爆弾が投下されたということ	78.9%	63.7%	82.0%	48.0%	85.9%	48.6%
世界各国でも平和のための取り組みが行われていること	58.4%	61.5%	70.0%	71.0%	63.3%	74.0%
規則やルールを守ることの大切さ	59.3%	58.4%	54.5%	50.5%	43.5%	31.1%
平和な社会をつくるために自分にもできることがあること	70.3%	77.0%	70.3%	76.8%	64.4%	58.8%
いじめや差別を受けている人を助けることの大切さ	67.8%	66.6%	66.3%	65.0%	50.8%	37.9%
世界の人びとと仲良くしたい気持ち	71.0%	71.0%	56.0%	57.5%	41.2%	35.6%
学校で平和について勉強することが大切だということ	75.7%	74.1%	63.3%	62.0%	58.8%	53.1%
他の人と意見を交流させ平和について新しい発見ができた	36.0%	48.9%	42.3%	54.5%	33.9%	29.9%
自分の平和への思いを他の人に聞いてもらえた	31.5%	43.8%	35.8%	43.8%	19.8%	13.0%
自分の平和に対する考えを表現することができた	42.0%	48.6%	40.5%	48.3%	26.0%	26.0%
学校での平和学習は楽しい	31.2%	36.9%	16.8%	25.5%	7.9%	4.5%
学校での平和学習は好きではない	36.0%	46.1%	20.5%	22.0%	11.9%	5.1%
平和は大切だと思うが学校での平和学習は好きではない	35.0%	32.5%	56.0%	53.0%	48.6%	41.8%
学校での平和学習は嫌いだ	7.9%	9.5%	13.5%	15.3%	7.9%	10.2%
学校での平和学習は暗い	9.1%	12.0%	23.0%	19.5%	18.6%	11.3%
学校での平和学習は怖い	22.1%	23.0%	18.8%	15.0%	14.1%	11.3%

(c) 高校生

高校生は、これまでの平和学習で「広島市以外にも原子爆弾が投下されたということ」、「広島市に原子爆弾が投下された日時」を学んできた」と回答した。他方、本プログラムによる学習からは「世界各国でも平和のための取り組みが行われていること」を学んだことが判明した。

3. 平和構築の重要性と意欲

平和な社会を構築することについて、小学生、中学生ならびに高校生がどのような関心や意欲を持っているかを検討するため、次の15項目についてそれぞれ5段階尺度で評価し、回答してもらった。本プログラムの事前と事後の調査結果から、子どもたちが平和な社会づくりを意識し、それに向けて努力していくように少しずつ促されていることがわかる。

(表13参照)

さらに、本プログラムの実施の前後での差および校種別の差について分散分析を行った。

表13：平和構築の重要性と意欲（平均値）

	平和構築の重要性		平和構築への意欲	
	事前	事後	事前	事後
小学校高学年	4.61	4.63	4.28	4.32
中学生	4.46	4.50	4.00	4.02
高校生	4.52	4.55	3.95	3.99

※重要性 [1…まったく大切でない ～ 5…とても大切である]
意 欲 [1…まったくしたくない ～ 5…とてもしてみたい]

(1) 平和構築の重要性に関する認識

その結果、平和構築の重要性については、中学生や高校生よりも小学生のほうが「自分や人、生き物の命を大切にする」、「まわりの人や友達と仲良く助け合う」、「戦争のない社会をつくる」、「原子爆弾の恐ろしさや被害の様子等を人々に伝える」、「平和記念公園などについて祈ったり平和への思いを持ったたりする」、「戦争や原子爆弾についてもっと学習する」、「被爆体験者などの話をもっと聞く」ことが重要であると認識していた。

(表14参照)

表14：平和構築の重要性と意欲に関する分散分析の結果（事前事後比較および校種比較）

内 容		平和構築の重要性			平和構築への意欲		
		事前	事後	有意差	事前	事後	有意差
戦争や原子爆弾についてもっと学習する	小	4.54	4.54	校種の差○	3.83	3.93	校種の差○
	中	4.29	4.36	(小>中)	3.43	3.60	(小>中・高)
	高	4.40	4.48	時期の差×	3.35	3.57	時期の差○
日本だけでなく世界の国について学習する	小	4.26	4.39	校種の差×	4.02	4.02	校種の差○
	中	4.09	4.29	(小・高>中)	3.66	3.78	(小>中・高)
	高	4.18	4.32	時期の差○	3.59	3.67	時期の差×
被爆体験者などの話をもっと聞く	小	4.37	4.45	校種の差○	3.91	3.97	校種の差○
	中	4.15	4.33	(小・高>中)	3.44	3.47	(小>中・高)
	高	4.37	4.57	時期の差○	3.38	3.54	時期の差○
平和記念公園などに行き祈ったり平和への思いをもったたりする	小	4.65	4.64	校種の差○	4.25	4.34	校種の差○
	中	4.25	4.32	(小>中・高)	3.60	3.68	(小>中・高)
	高	4.15	4.31	時期の差○	3.44	3.63	時期の差○
原子爆弾のおそろしさや被害の様子などを人々に伝える	小	4.57	4.64	校種の差○	3.95	4.13	校種の差○
	中	4.41	4.48	(小・高>中)	3.49	3.56	(小>中・高)
	高	4.59	4.58	時期の差×	3.35	3.55	時期の差○
平和への思いを文や絵、音楽や劇などで伝える	小	4.24	4.30	校種の差○	3.84	3.84	校種の差○
	中	3.86	3.98	(小>中・高)	3.30	3.34	(小>中・高)
	高	3.99	4.05	時期の差○	3.07	3.20	時期の差×
まわりの人や友達と仲よくし、助け合う	小	4.84	4.78	校種の差○	4.65	4.68	校種の差○
	中	4.58	4.62	(小>中・高)	4.39	4.44	(小>中・高)
	高	4.59	4.54	時期の差×	4.48	4.37	時期の差×
人を差別したりいじめたりしない	小	4.82	4.84	校種の差×	4.56	4.68	校種の差×
	中	4.76	4.71	時期の差×	4.48	4.49	時期の差×
	高	4.79	4.77		4.54	4.57	
差別やいじめを受けている人を助ける	小	4.77	4.79	校種の差×	4.49	4.49	校種の差○
	中	4.68	4.67	(小>中・高)	4.31	4.32	(小>中・高)
	高	4.72	4.72	時期の差×	4.18	4.23	時期の差×
自分や人、生き物の命を大切にする	小	4.87	4.89	校種の差○	4.72	4.80	校種の差○
	中	4.71	4.73	(小・高>中)	4.55	4.52	(小>中・高)
	高	4.83	4.82	時期の差×	4.65	4.54	時期の差※
他の国の人たちと仲よくし、助け合う	小	4.60	4.68	校種の差×	4.27	4.38	校種の差×
	中	4.48	4.54	時期の差×	4.14	4.17	校種の差×
	高	4.62	4.59		4.26	4.21	時期の差×
人々が安心して生活できる社会をつくる	小	4.69	4.72	校種の差×	4.34	4.41	校種の差×
	中	4.63	4.63	時期の差×	4.32	4.27	時期の差×
	高	4.69	4.72		4.27	4.30	
原子爆弾など核兵器のない世界をつくる	小	4.83	4.78	校種の差×	4.60	4.53	校種の差○
	中	4.73	4.69	(小>中・高)	4.34	4.27	(小>中・高)
	高	4.81	4.77	時期の差×	4.35	4.29	時期の差×
戦争のない世界をつくる	小	4.93	4.88	校種の差○	4.68	4.71	校種の差○
	中	4.76	4.71	(小>中・高)	4.33	4.43	(小>中・高)
	高	4.82	4.76	時期の差×	4.37	4.39	時期の差×
貧しさや飢えのない平等な社会をつくる	小	4.75	4.74	校種の差×	4.50	4.50	校種の差○
	中	4.66	4.65	(小>中・高)	4.31	4.27	(小>中・高)
	高	4.69	4.69	時期の差×	4.23	4.30	時期の差×

(2) 平和構築への意欲に関する認識

他方、平和構築への意欲については、中学生および高校生よりも小学校4～6年生のほうが「自分や人、生き物の命を大切にする」、「戦争のない世界をつくる」、「まわりの人や友達と仲よくし、助け合う」、「原子爆弾など核兵器のない世界をつくる」、「貧しさや飢えのない社会をつくる」、「平和記念公園などに行って祈ったり平和への思いをもったりする」、「原子爆弾のおそろしさや被害の様子などを人々に伝える」、「日本だけではなく世界の国について学習する」、「被爆体験者などの話をもっと聞く」という点について意欲が高いことが明らかとなった。

また、本プログラムによる学習を通して「平和記念公園などに行って祈ったり平和への思いをもったりする」、「原子爆弾のおそろしさや被害の様子などを人々に伝える」、「被爆体験者などの話をもっと聞く」、「戦争や原子爆弾についてもっと学習する」という点において意欲が高まることが判明した。

IV. 結果の考察

調査結果を踏まえ、新たな「平和教育プログラム」の効果についての考察を加えるとすれば、それは以下の3点に集約される。

第一に、本プログラムによる学習を通して、児童生徒たちは原爆投下をめぐる知識を精緻化することができたということである。すなわち本プログラムは、被爆をめぐる知識の精緻化に効果を発揮するということである。

第二に、本プログラムによる学習によって小・中学生は、平和な社会の構築に向けて自分にもできることがあり、それゆえ平和学習が大切だと感じるようになったということである。また、中学生や高校生になるにつれて、平和に向けた世界各国の取り組みについて学ぶことに関心を示すようになっていく。

第三に、児童生徒たちは学習を通して平和の大切さを認識しながらも、平和な社会づくりのために実際に行動するかといえば必ずしもそうではないということである。それと比較すると平和構築への意欲は弱いように見える。ただ、意欲に関する平均得点が3.5～4.0程度であるため、平和な社会をつくることへの意欲は持ち合わせていることが窺える。

おわりに

広島市教育委員会によって策定された新しい「平和教育プログラム」は、まだ始まったばかりである。そして、ESDの視点を取り入れた平和教育に関する研究は、世界でも珍しい未開拓の分野である。したがって今後の課題としては、今回策定された「平和教育プログラム」のうち、どの学習単元に高い効果が見られ、どの単元を改善すべきか、経年変化をみながら具体的に検討することである。そして、児童生徒たちが持続可能で平和な社会をつくるための具体的な行動を喚起するように、より学習効果の高い平和教育プログラムの開発に努めることが求められる。

参考文献

- ト部匡司（2009）「ESDは平和教育にどう位置づか？」『徳山大学論叢（第68号）』徳山大学経済学会、63-75頁。
- 広島市（2010）「広島市教育振興基本計画」。
- 広島市教育委員会（2012）『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料〔試案〕』広島市教育委員会。
- 広島市教育委員会（2011）『調査報告書：平和に関する意識実態調査』広島市教育委員会。
- 立教大学ESD研究センター監修、阿部治、田中治彦編著（2012）『アジア・太平洋地域のESD<持続可能な開発のための教育>の新展開』明石書店。